

南二丁目町会史 (資料)

古川澄子
安藤金嗣

年 号	事 項
大正 12 年	関東大震災 東京市内で被災した人々が安住の地を求めて目黒地域に移り住むようになって、人口が増加していった。それまでは緑豊かな農村地帯であった。
大正 12 年	目蒲線開通 前年の大正 11 年に目黒村が町制を敷く。
昭和 2 年	東横線開通 昭和 2 年碑衾村が町制を敷く。これで目黒地域は東京府荏原郡目黒町・同碑衾町の二つの町となった。
昭和 7 年	目黒町・碑衾町が合併して目黒区が誕生した（10月1日市町村合併で大東京が誕生）。 1932年（昭和7年）10月発行：東京日々新聞付録地図に次のように記載されている。 宮ヶ丘、高木町・富士見台（東方面）、平町・中根町（西方面）、大岡山（南方面）
昭和 8 年	昭和 8 年 2 月 宮ヶ丘町会の誕生 事務所 宮ヶ丘 1899 番地 ※以下、目黒区大観（178頁・179頁）：昭和10年発行より抜粋 沿革 旧碑衾時代の第5区に属していたが、併合後昭和8年2月に至って現町会を組織したものである。初代の会長に矢島熊吉氏が就任し、同年9月田辺豊氏が2代目を継ぎ、翌9年7月寺西彦三郎氏が3代目を継いだ。この間地理的關係から一時道京塚の部分が分離したが、間もなく合流復帰して旧態に戻っている。 町名及び区域 区域は子の神・宮ノ久保・道京塚等の旧子字にまたがり市郡併合の際碑文谷町となるところであったが、陳情の結果現町名を冠する事となったもので、宮ヶ丘とは町内に八幡神社を有し、地勢が本郷及び大岡山に続く丘陵をなしているところから起こった町名である。なお町会内を9部に分かち、番地は宮ヶ丘1687～1730・1839～1943に亘っている。 東京府荏原郡 碑衾町 （大字）碑文谷 （字）子の神 1687～1730番地 （字）道京塚 1839/1～1882番地 （字）宮ノ久保 1883/1～1943番地 ※ 子の神・道京塚・宮ノ久保の3区域を併合して宮ヶ丘としたものである。 昭和8年の目黒区の町会数は47町と丁目の合計数は44でだいたい町あるいは丁目を単位に町会が結成された。
昭和 9 年	全町会からなる目黒区町会連合会が結成された。 昭和9年5月大岡山小学校火災 焼け残った職員宿直室を買い取って町会事務所とした。
昭和 12 年	目黒区内町会数は67町会になった。
昭和 13 年	日支事変が始った。
昭和 14 年	国家総動員法が公布された。 市→区→町会一隣組 東京市 目黒区 宮ヶ丘
昭和 18 年	東京都制が実施された。その直前に「東京市町会隣組戦時体制確立強化要綱」を発表。
昭和 20 年	終戦

昭和22年	町会解散 かわりに目黒区の出張所が12カ所設置された。宮ヶ丘は第9出張所管内となった。
昭和28年	この頃から町会活動が再開された。
昭和43年	明治維新100年記念事業として、町会事務所を改築した。 43年5月着工 6月完成 町会員から資金寄付を募って、改築費用に充てた。
昭和54年	宮ヶ丘町会内の南三丁目地域が分離し、4月1日を以て南三丁目町会を創立した。 町会名を南二丁目町会と変更した。 町会長 松本 正子 副会長 佐々木 律 会計部長 田口 保 婦人部長 高橋 なつ 防犯部長 田口 保 青少年部長 奥田 弘子 同副部長 真仁田英佐子 顧問 原田 啓太郎 同 松本 仙 ※会員数 南二丁目町会 710名 南三丁目町会 294名
昭和55年	町会事務所の土地賃貸借契約期限が満了となった。 土地等価交換 名義人 子安一郎 松本正子（会長） 建物の一部改造をした。
歴代町会長	昭和8年2月 宮ヶ丘町会創立 初代会長 矢島 熊吉 8年9月 田辺 豊 9年7月 寺西彦三郎 11年9月1日現在 富岡金蔵 ※東京都目黒区勢概要 昭和11年版（昭和11年10月刊） 昭和43年～49年 原田啓太郎 昭和54年～55年 松本 正子 昭和56年～平成9年 佐々木 律 平成10年以降 嶺井 和雄